

こんにちは 綾とおる です



日本共産党 新島村政対策責任者 (新島村議予定候補)

2018.10.25 号

村議会の傍聴続けています

昨年の9月議会から5回の議会傍聴を続けてきました。私にとって、議会の傍聴は、村政について勉強する最良の場です。

村議会はインターネットでも中継されているので、自宅でご覧になっている方も少なくないでしょう。実際の議会でのやりとりは各戸に配布されている「議会だより」にまとめられているような簡潔なものではありません。その場でしかわからない雰囲気を感じることができないのも、私が議会傍聴にとりくむ理由のひとつです。

何れにしても、村議会は住民のねがいを村政に届け、その声を反映させていく重要な場である

ることを、傍聴に行く度に痛感します。

私も訴えた島外通院交通費の助成が実現の方向へ

この間、議会を傍聴して一番嬉しかったことは、私が都議選や村議補選で声を大にして訴えた、島外受診の際の通院交通費に対する助成の問題が村議会の中で議論され、実施の方向に大きく前進し始めたことです。

消極的だった村の姿勢も変わり、現在では実施にむけ対象者の範囲や助成額、回数などの具体的な検討が始まっています。私自身が質することができなかったのは正直言って残念ではありますが、この問題をとりあげ、議会で質問してくださった村議

会、議員のみなさんには感謝したいと思います。

速報

若郷渡浮根港に仮設トイレ設置 (船客待合所整備までの間) 日本共産党・原田あきらら都議への答弁(10/19都議会決算特別委員会) 来月、綾とおるも都議団とともに東京都への要請をおこないます。

国保税値上げや消費税増税に声あげる議員が必要

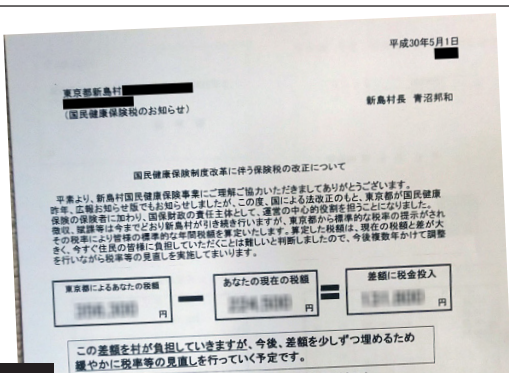
同時に、議会を傍聴して納得の行かないこともあり、それは国保税や消費税の増税など、村民の命と暮らしにかかわる問題が、村議会ではあまりと

りあげられていないことです。「国政や都政の問題は村議会でき取り上げても仕方がない」という声があることは承知していただきます。しかし、平和や憲法の問題も含め、住民の生活に否応なしに関わってくる国政や都政の重要問題で声を上げるのは、村議会として当然のあり方だと私は思うのです。

日本共産党の議員がいる他の島のように、「値上げ、増税には反対。住民の負担軽減する独自の手立てをとるとともに、国・都の財政支援を強く求めよ」と堂々と主張する議員が、新島村にも必要ではないでしょうか。

住み続けられる島へ 決意あらた

島での暮らしも10年を超え、



5月に村から来た通知にビックリ。これではまるで値上げの予告です。

国民健康保険税がこんなに高いのはそもそも国が社会保障を切り捨てて、約束したお金の繰り入れをサポートしているのが原因。安倍政権は一方で、大企業や富裕層には減税しているのですから、怒りさえ湧いてきます。

こんな時こそ、村は住民の暮らしを守る防波堤となって、国の悪政に対して声を上げるべきではないでしょうか。私はそのことを強く訴えていきます。

国保税値上げ許すな!

日本共産党 新島村政対策責任者

綾とおる

1952年生まれ。北海道出身。式根島在住。中央大学卒(通信制)。国鉄(現JR)入社。元国労上野支部副委員長。2013・2017年都議候補として奮闘。電気工事士、クレーン運転士、総合旅行業取扱管理者、小型船舶一級、ダイビングなど各種免許保持。



みなさんからさまざまな要望、提案を寄せられることも多くなってきました。寄せられる声の大もとには「この島で安心して住み続けたい」という、みなさんの切実なねがいがいることをつよく感じます。私もこの島が大好きになって移り住んだ人間です。私たちの愛する島のために、よりよい新島村政にしていけるよう、がんばる決意です。

こりや大変! 広尾病院は どうなるの?

「地方独立行政法人化」ってナニ?

「採算優先」でいいのですか?」

東京都は、広尾病院をはじめとする「都立病院」を「地方独立行政法人」という、別の経営形態に変える新たな「都立病院改革」をすすめるようとしています。

「地方独立行政法人化」とは、簡単に言えば「都立」の病院ではなくなるということ。すすめている側は、改革の理由を「経営改善」と説明していますが、「都立病院」だといろいろ制約があるので、「もうけ優先」に突っ走れる別の経営形態に変えたいということに他なりません。

このままでは、島民の「命の砦」が壊される!

都立病院では重要な変更は条例変更のための議会手続きが必要ですが、採算を重視する独立行政法人になれば、議会にかけることなしに、不採

算医療の切り捨てや患者への負担増が可能になります。

広尾病院は島民にとってかけがえない「命の砦」です。しかし、島の医療が広尾病院にとって「もうけ」になっているとはとても思えません。広尾病院が都立病院ではなくなったら、いま果たしているような役割は果たせるのでしょうか。

独立行政法人化された病院では患者へのしわ寄せが始まっている

すでに地方独立行政法人化された東京都健康長寿医療センターでは、全病床の1/4が有料個室になり使用する場合に入院時に10万円の保証金が徴収されるようになったということです。

こんなことが広尾病院で起きたら

日本共産党都議団は「都立病院守れ」と奮闘

都議会では6月に、都内約27000筆(島からも大島中心に約1000筆)の署名を集めた「都立病院の独立行政法人化をやめ、直営を堅持してください」という請願が、都民ファーストの会、自民党、公明党の反対で不採択になりました。

請願に賛成を表明した日本共産党の藤田りょうこ都議(大田区選出)は、すでに独立行政法人化した都立病院などで患者の負担増や不採算部門の病床廃止、職員の賃金カットなど、経営優先の事例をあげて、「都立の直営でこそ安定した医療の提供ができる」と主張しました。

運動はこれからです。日本共産党都議団もともにたたかいます。

大変ですが、絶対に起こらないという保障はありません。

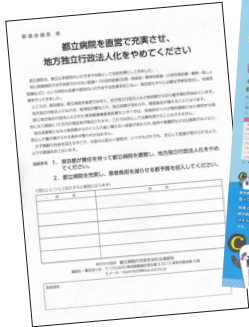
私たちは誰もが「いざという時は広尾病院がある」と思って暮らしています。島の安心の要である広尾病院を、東京都が責任を持って運営する都立病院として充実させてもらいたいと考えるのは当然のねがいです。

「都立」の広尾病院を守るため
新島・式根島からも声あげよう

人の命はお金では買えません。「もうけ」を優先して、住民の命と暮らしをあと回しにする政治はますますやめるべきではないでしょうか。

「都立病院の独立行政法人化をやめさせよう」、「都立の広尾病院を守ろう」の声を新島・式根島からもあげていきましょう。

署名運動にとりくみます



「都立病院の充実を求める連絡会」が呼びかけている「やめさせよう! 都立病院の地方独立行政法人化」署名にとりくみます。

島にとって命の砦である都立広尾病院をまもるため、新島、式根島からも声を上げていきましょう。

「都立病院の充実を求める連絡会」のホームページ
<https://toritu-mamoru.com>

署名用紙は綾のところにありますので、必要な方はご連絡ください。

<http://www2.jcp-tokyo.net/aya/>
綾とおるのホームページでも情報発信していきます

「しんぶん赤旗」電子版 読んでみませんか?

パソコンやスマホで読める「しんぶん赤旗」電子版がスタートしました。1面から最終面のテレビ欄まで、「しんぶん赤旗」日刊紙のその日の記事が毎日朝から読めます。

支払いはカード払いだけなので、クレジットカードがないと申し込みできませんが、インターネットに強い方、若い方にはおすすめです。

日本共産党中央委員会のホームページ

<http://www/jcp.or.jp> で申し込みを受け付けています。



料金は月額 3497 円